

解答

一

- 問一 エ
問二 ア
問三 申し訳なさそうに煙草に火を点けたり、うなだれるようにウィスキーを飲む普段の姿とは異なり、品よく優雅で魅力的に振る舞った。
問四 最初： 朝日は 最後： 見える
問五 ウ
問六 転校生の私と外来であるカバのポチ子だけが、自分の居場所がなく、同じ境遇のように感じるから。
問七 〈a〉（手紙が） 山の上の家に、外の世界から吹き込んでくる一陣の風だった（から）。
問八 〈b〉（彼らは） 手紙が届く喜び（を大事にし、それを） 分かち合える（人たちだった）。
問九 a ウ b エ c ア d イ
問十 l イ 2 エ 3 ア 4 ウ
問十一 A なまはんか B なふだ C きじ D けはい

二

- 問一 科学的な教育が行き届いているはずの現代のほうが、明治時代よりも丙午の出産を避ける人の割合が増えていたということ。
問二 イ
問三 最初： あるこ 最後： 理状態
問四 信じるという言葉は、信じる対象が不確実であるという意味を帯びて使われ、テレビのような確実な事象には似合わない表現だから。
問五 エ
問六 ③
問七 A エ B イ
問八 ア
問九 l ア 2 ウ 3 イ
問十 イ
問十一 a 周期 b 定時 c 強固 d 究明

解説

一

- 問二 米田さんの「転校生だからと言って、びくびくしてたらいけません。」という発言や少し後にある、「クラスの子たちを見回したところ、私だけが目立って田舎くさいというわけではなかった。母の一番の心配はそこにあったのだが、米田さんの言うとおり、恐れる必要はなさそうだった。」から、選択肢アが最も適切です。
問五 — 部⑤の直後にある一文に着目します。皆、本来あるべき自分の居場所に守られているのに、私だけが置き去りにされている気分になることから選択肢ウが選べます。